



Fig. 1 「ライト」を差し込んだ状態のしかけ絵本



Fig. 2 「ライト」をページに置いた状態のしかけ絵本



Fig. 3 絵本「ライトでみつけ! まよなかのおしろたんけん」1)の表紙



Fig. 4 絵本「たんけんライトシリーズ1 恐竜たんけん」4)の表紙と透明なページ



Fig. 5 影絵用のトランスペアレンシーがページになっている絵本

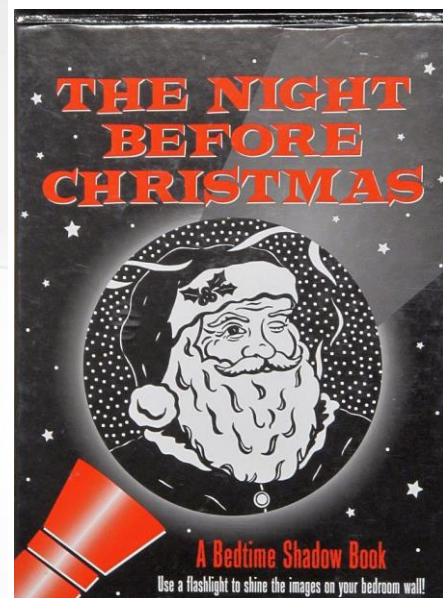


Fig. 6 絵本「The Night Before Christmas」5)の表紙

## 口絵解説

## 「画像からくり」

## 第23回 トランスペアレンシーを利用したしかけ絵本—カラープリントを教えるための機材

## 23. Picture Books with Gimmicks Using Transparency — Equipment for Teaching a Color Print

桑山哲郎

現像後のカラー印画紙では、イエロー・マゼンタ・シアンの色素像がゼラチン層内に形成され、ベースとなる白い紙に密着して配置されている。もしもゼラチンの層をベースと分離したり、また密着させたりして示すことができれば、教育の効果が大変上がるだろうと考えていたところ、絵本の売場でこの用途に最適な絵本を発見した。今回は教育に適していると思われる、しかけ絵本をご紹介します。

Fig. 1は、「ライトでみつけ！ まよなかのおしろたんけん」<sup>1)</sup>というタイトルの絵本のページである。取り扱い説明に従い、付属の「ライト」をページ右端のスリットから差し込んでいる。絵本のページは、周囲は額縁のような形のカラー印刷で、中央部は黒く見える。「ライト」を差し込んだ部分だけは、カラー画像が見え、しかも周囲の印刷と完全に連続して見える。残りの領域は黒いままである。「ライト」と言いながら、ただの白い紙でできたカードなのに、大変不思議な視覚効果を作り出している。

Fig. 2は「ライト」を開いた絵本のページの上に置いた状態で、これが単なる白い紙であることが分かる。実は、この絵本のページは全面を黒く印刷されていて、手前にはカラー印刷のトランスペアレンシーが密着して配置されているのである。イエロー・マゼンタ・シアンの像は光を拡散せずに透過あるいは吸収するだけなので、黒い紙に密着しているときには像はほとんど見えない。白い紙を間に差し込むと、紙で拡散反射される光が着色し、カラー画像が見えることとなる。

Fig. 3は、このしかけ絵本の表紙である。右下には「ライトをてらすとおぼけがうかびあがるよ」と書かれているが、慣れた人が実演しないと、この絵本の不思議な見え方をアピールするのは困難だろうと思われる。全く同じしかけの絵本が、私の手元には13冊集まっている。サンリオキャラクター<sup>2)</sup>、ポケモンキャラクター<sup>3)</sup>のほぼ同じ趣向の絵本と、次に紹介する図鑑のシリーズ10冊である。このしかけの絵本には、特別決まった呼び方が存在しないこと、書棚でタイトルや背表紙を見ても、同じしかけであることを見抜くことが困難なことなどから、かなりの見落としがあると思われる。

Fig. 4は、10冊のシリーズとして刊行されている図鑑の第

1冊目<sup>4)</sup>である。この絵本の構造の方が、トランスペアレンシーを用いる絵本の原理を理解しやすいものと思われる。ダブルリング綴じの絵本で、向かって左は通常の印刷のページ、右は全面が黒色のページで、その間にカラートランスペアレンシーのシートでできたページが挟み込まれている。シートが黒色のページに密着していると、恐竜の姿は黒い中にぼんやりと見えているが、「たんけんライト」を差し込んだ部分だけは、はっきりと像が見える。画面の一部分しか見ることができないので、子供には探検遊びの感覚で楽しめる絵本になっている。出版社のWebサイトで「たんけんライトシリーズ」を検索すると、全部で10冊刊行されている絵本のタイトルを知ることができる。

<http://www.gakuyosha-p.co.jp/index.html>

Fig. 5は、これまで取り上げたのとは別なアイデアで、トランスペアレンシーを用いている絵本である。本文ページは丸い穴が開いた7枚のカードで構成されている。穴に張られた透明シートには、黒い線でクリスマスの物語が描かれている。「A Bedtime Shadow Book」と表紙に表示されているが、ペンライトでページを照らし、影絵を寝室の壁に映写して子供に物語を読み聞かせる趣向で作られている。絵本としてこの考え方は大変珍しい。やはりダブルリング綴じで、店頭で多くの絵本の中から見つけ出す手がかりになっている。

Fig. 6は、この絵本<sup>5)</sup>の表紙である。黒を基調とした表紙で、あまり例が無い光学のしかけが収められていることが分からない外観である。世界中で、この様な造りの絵本が何種類刊行されているかは良く分からないが、この出版社のWebサイトには6種類の絵本のタイトルが掲載されているので、他にもいろいろなテーマで出版されていることが予想される。

<http://www.peterpauper.com/the-night-before-christmas-bedtime-shadow-book-2717>

以上、トランスペアレンシーを用いた、珍しいしかけ絵本を3冊紹介した。白い紙に印刷されたページに、透明あるいは不透明の印刷をしたトランスペアレンシーが重なる絵本は数多く存在するが、背景を黒くすると不思議な効果が発揮されるようになる。インクジェットプリンタで透明シートにプリントし、同様な絵本を自作するのはそれ程困難ではないと思われるので、興味を持たれた方はぜひ手作りに挑戦していただきたい。

## 引用文献

- 1) むらい かよ 絵と文、「ライトでみつけ！ まよなかのおしろたんけん」、ポプラ社、東京、2007。
- 2) “サンリオ シナモンのライトでさがそう！ ピッカリえほん あおいとりをみつけて”，サンリオ、東京、2007。
- 3) “ポケモンベストウィッシュ ライトでさがそう！ ぴっかり よるの だいぼうけん”，小学館しかけえほん，小学館，東京，2012。
- 4) ガリマール・ジュネス社 編，石井玲子 訳，“はじめての発見 たんけんライトシリーズ1 恐竜たんけん”，岳陽舎，東京，2007。
- 5) Clement C. Moore, Illustrated by Heather Zschock, “The Night Before Christmas A Bedtime Shadow Book”, Peter Pauper Press, Inc., New York, 2006.